

ところざわ倶楽部

野老澤の歴史を楽しむ会

活動報告

記録：田口 靖

富士塚山開き見物 ～荒幡富士・八国山周辺の史跡めぐり～

■実施日時：2019年7月1日(月) 9:00～12:30

■コース概要：下山口駅集合

→いきものふれあいの里→荒幡富士・山開き見学(10:00～10:20)

→鳩峰八幡神社→久米水天宮→八国山周辺散策

→久米川古戦場跡→勢揃橋→長久寺→所沢駅・解散

■参加者：15名

■当日の天候：小雨

【散策の記録】

1. いきものふれあいの里

下山口駅前に集合したメンバーで最初の目的地「狭山丘陵いきものふれあいの里センター」へ出発。ここは緩い登り坂が続きます。小雨のばらつく中到着したら、なんと「月曜日」は休館とのこと。事前連絡をして、ここで「ふれあいの里」の説明を受ける予定でしたが残念でした。やむを得ず、少しはよいトイレ休憩。

2. 荒幡富士山開き

ふれあいの里から数分で「荒幡の富士」（標高約119メートル）につきます。

所沢市のホームページによると、荒幡村（現在の所沢市荒幡）には、小字ごとに鎮守があり、村民氏子はそれぞれ分かれていますが、それでは村内の民心の統一が図れないと、明治14年（1881年）に三島神社・氷川神社・

神明神社・松尾神社の4社を、村社の浅間神社に合祀して松尾神社の社地へ遷しました。さらに村の和を増大させるため、明治17年（1884年）から旧浅間神社の社地



カメラマンは池田さん

にあった富士山の村民共同による移築作業を始めます。明治32年（1899年）、15年の歳月をかけて「荒幡の富士」は完成しました。

完成からは約120年になるわけです。数人の神官と氏子さん達が集まり、10時から厳かに神事が始まりました。ネットによれば、埼玉県には富士塚が数百ほどあるようですが、この荒幡富士は中でもトップクラスの規模です。



3. 鳩峰八幡神社

荒幡小学校の脇を通り「ドレミの丘」を経由して鳩峰八幡神社へいきました。

この神社の創建は延喜21年(921)と古く、京都の八幡市の男山に鎮座する石清水八幡宮より分祀を受け祀られたとされています。「鳩峰」は男山の正式名称「鳩が峰」にちなみ、際神も石清水八幡宮とそのまま同じです。

八国山に陣を敷いた新田義貞が八幡神社に参拝した際に社前の松に兜を掛けて祈願したとされ、その何代目かの「兜掛けの松」があります。



この境内には水天宮、八坂神社、兜稻荷社、浅間社、神名社、諏訪社、愛宕社、日枝社、等多くの神社が合祀されています。

4. 久米水天宮

水天宮は福岡県久留米市瀬下町の水天宮を総本宮として日本全国にある神社です。

際神は安徳天皇で、江戸時代から水徳の神として水と子供を守護し、水難除け、安産、子受け、子育ての神とされています。所沢では地名から久米水天宮と呼ばれ、大例祭は1月5日で、だるま市と重なり、露天商も店を出し、市内からの初詣客と共に大いに賑わいます。

5. 八国山周辺散策

八国山緑地は東西に約3.5km、標高約90mの細長い緑地で、東京都と埼玉県の境となっており、東京都側は緑地、埼玉県側は「松が丘団地」があります。かつては山上から眺めると駿河国の富士山、相模国の箱根山、甲斐武蔵国の秩父武甲山、信濃国の浅間山、上野の国の赤城山、下野の国の男体山、常陸国の筑波山、上総国の狩野山など八つの国の山を臨むことが出来たことから八国山と名付けられたとされています。当時はこの付近律令時代の官道「東山道武蔵路」が通っていたとされており、麓の小さな公園に当時を偲ばせる「非田処跡」の碑がありました。



八国山には新田義貞が「久米川の戦い」の際に陣を張ったとされており、尾根の東部には「將軍塚」の石碑がありますが、当日は小雨で足下が悪いため、残念でしたが尾根歩きは見合わせました。

6. 久米川古戦場

「ところざわの歴史」から少し外れますが、「將軍塚」を下りたところから東京都に入って直ぐの小さな公園に「久米川古戦場跡」の碑があります。新田義貞の軍勢が初戦の小手指原合戦で鎌倉幕府軍を破ったあと、第二戦が行われたのがこの周辺と言われています。

7. 勢揃橋

柳瀬川に係る小さな橋で、バス停があります。

新田義貞が鎌倉責めの際に軍勢を勢揃えさせたと伝えられている場所です。

8. 長久寺

鎌倉時代末に建立された時宗の寺です。時宗は一遍上人が始めた念仏宗の一つで、長久寺は所沢では唯一の時宗の寺です。開基した僧侶は久阿弥陀仏で、新田義貞の鎌倉幕府討伐の際、府中の分倍河原で戦死した新田方の武将の供養塔を八国山に建立した人といわれています。本尊は「金銅阿弥陀三尊立像」です。

【当日のコース】



担当 (Aグループ) 池田 衛、 安田好子、 田口 靖

★なお、この報告書の記述にあたっては、平成 30 年度語り部養成講座資料「所沢久米地域の歴史散策 (中村眞一)」を参考にし、一部引用をしました。